

## 小児用バップアリン（低用量アスピリン）と メドロール（ステロイドホルモン）服用について

体外受精・採卵にて良好な胚の着床を補助する方法として低用量アスピリンとステロイドの服用を勧めています。低用量アスピリンは免疫学的要因・自己抗体などが原因の流産に用いられる薬剤です。なんらかの免疫異常が原因で絨毛間腔（胎盤の母体血液をやり取りする場所）に血栓が生じ血液循環が障害されるのを防ぐ作用があります。同じく、免疫学的な異常の改善にステロイドホルモンは有効で広く使用される薬剤です。

低用量アスピリンとステロイドホルモンが着床を促進するかは、大規模な調査がなく科学的な立証はありませんが、副作用が少なく、着床を妨げる未知の抗体に対応すること、実際に抗リン脂質抗体症候群などの不妊原因に有効性が立証されていることなどから当院では移植後に2剤の投与を推奨しています。

服用方法ですが、当院では移植後より開始します。

低用量アスピリンとステロイドの服用は胎児死亡の抑制、子宮内発育遅延予防効果が報告されていることから心拍確認前後まで必要に応じて継続投与いたします。また、抗リン脂質抗体症候群や原因不明の流産を繰り返す場合には、症例に応じて妊娠28週あるいは、36週くらいまで服用する場合があります。

（産科医との相談になります）

着床初期には軽度の炎症に近い状態が必要ということが分かっています。2剤とも炎症を抑える効果があるので排卵より早い時期からの服用はお勧めしていません。

処方薬名	作用
小児用バップアリン（低用量アスピリン）	血液を凝固しにくくする。 胎盤の中に血栓ができることで胎児（胎芽）に酸素や必要な栄養が届かないという事態を防ぐ。
メドロール（ステロイドホルモン）	免疫力を安定させ、免疫異常を防ぐ。